

## 平成21年度環境技術実証事業

### 山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第3回） 議事要旨

日時	日時：平成21年10月23日（金）10：00～12：00
場所	青山生涯学習館 学習室2
出席者	検討員：相野谷誠志（（株）蒼設備設計 設備設計部 課長） 井田忠夫（神奈川県自然保護センター 副技幹） 岡城孝雄（（財）日本環境整備教育センター 調査研究グループリーダー） 桜井敏郎（（社）神奈川県生活水保全協会 理事） 穂苅康治（槍ヶ岳山荘・槍沢ロッジ） 森武昭（神奈川工科大学 副学長）（座長） 五十音順 環境省：自然環境局自然環境整備担当参事官室（大庭一夫、田畑克彦） 総合政策局環境研究技術室（坂井美穂子） 事務局：NPO 法人山のECHO（上幸雄、加藤篤、永原龍典）
議事	（1） 経年実証試験の実施内容の確認について （2） メンテナンスマニュアルの確認について （3） 山岳トイレ技術セミナーについて （4） その他
配付資料	資料1 経年実証試験の実施内容の確認について 資料2 メンテナンスマニュアルの確認について 資料3 山岳トイレ技術セミナーについて
公開／非公開	議事は公開で行なわれた

#### （1） 経年実証試験の実施内容の確認について

- ランニングコスト及び機器の改良状況については、今回の予備調査報告（資料）で把握できていることが確認された。
- 利用者数はカウンターの設置による方法が望ましい。また、記録は1週間単位での把握でよいとの意見があった。
- 経年実証試験は性能を維持しているかどうかを把握することが重要であるので、実際の実証試験における試料採取は、装置の処理能力に近い規模の利用状況で実施することが重要であるとの意見があった。

#### （2） メンテナンスマニュアルの確認について

- 実際に山岳トイレを運用する現場には、トラブル等に対応するマニュアルに相当するものがなく、トラブル等が発生した場合には、メーカーに直接電話等で相談することで対応しているので、利用者が安心して導入するためには、マニュアルの存在は重要であるとの意見があった。

- 試験要領の中でマニュアルの重要性を位置づけ、申請者へ提示することが、メーカーの育成へとつながるとの意見があった。
- 原案で示されている記載項目はどれも必要と考えられるが、現状ですべてを網羅したマニュアルをメーカーに求めることは難しいと思われるとの意見があった。
- 技術実証が事業の趣旨であることから、個別のマニュアルの記載内容まで議論の対象とするのは、困難ではないかと考えられる。しかし、マニュアルに記載すべき項目を検討し、実証試験の中でチェックすることは出来ると考えられるので、チェック項目だけでも試験要領を追加することが望ましいとの意見があった。
- 記載項目の有無をチェックし、その結果を公表するだけでもユーザーへの安心やメーカーの意識改革に繋がるのではないかとこの意見があった。

### (3) 山岳トイレ技術セミナーについて

- 岩手県の報告については、携帯トイレに限定せず、県内の避難小屋におけるトイレ整備の取り組みを紹介してもらえよう、タイトルを再検討することが望ましいとの意見があった。

### (4) その他

- 山岳地から対象範囲が山麓・海浜等に広がってきていることへの対応として名称変更を進めてきているので、その趣旨を最も映している「**自然地域トイレし尿処理技術分野**」が新たな名称として、ふさわしいとの意見があった。